

# 2016年度 センター試験 数学ⅡB (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：2 題必答・2 題選択
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化    ○ 変化なし    ○ やや易化    ● 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加                      ● 変化なし                      ○ 減少
出題分野の変化	○ あり                      ● なし
出題形式の変化	○ あり                      ● なし
新傾向の問題	○ あり                      ● なし
<p>総評</p> <p>昨年と比較すると解答者が自ら考察する問題の割合が減少しており、また計算量も減ったため、全体を通して解答しやすい問題が多くなった。どの問題も典型的なテーマが出題されている。特に、昨年度難しかった数学Bの問題が解答しやすくなったため、平均点が上昇すると思われる。指数・対数関数のグラフの位置関係を選択させる問題や、面積の増加・減少を計算ではなく図で判断させる問題など、目新しい問題も見られたが、特に難しい問題ではなかった。</p>	

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	[1] 指数・対数関数 [2] 三角関数	30 点	[1] 指数・対数関数のグラフの位置関係を選択させる問題が目新しいが、問われていることは基本的な内容である。後半も典型的な問題のため、得点しやすい。 [2] 三角方程式の解の個数の問題。置き換えをした際の解の個数の対応関係を整理することがポイントである。なお、(2)は(1)を飛ばしても解答できるようになっている。
第2問	微分法・積分法	30 点	面積の最大値を求める典型的な問題である。図形的な考察は必要だが、着眼点はすべて誘導されているため、手が止まることはない。昨年度に比べると計算量も少ない。増加・減少を図で判断させる点は目新しかった。
第3問	数列	20 点	典型的な群数列の問題である。群の番号と分母の数がずれているため、その点は注意が必要である。また誘導は丁寧であるものの、その誘導に乗るためには各記号の意味を把握する必要がある。
第4問	ベクトル	20 点	空間ベクトルに関する問題である。内積、大きさ、面積に関する典型的な問題で解きやすい。誘導に従って計算していけば解ける。一方で誘導に乗らずに図形的考察で埋められる解答欄もある。
第5問	確率分布と統計的な推測	20 点	省略